第 2014-23 号

恵みと真理のニュース

2014 年 6 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　良い羊飼いで義人の道で導いてくださり 礼拝と仕える幸せを享受するようにしてくださる主を賛美します。

江原道のサンチョクの田舎で 3 男６女の中で五番目で生まれ小学校を卒業をして町で一人暮らしをしながら中学校に通う時でした。
父が急に足が痛くてソウル病院に行って診察を受けた結果“ボオス病”という珍しい病の診断を受けました。医師から“百万人の中で一人ぐらい患う珍しい病気で治療が不可能だと言われました。”
ボゴス病気は動脈や静脈が、ある原因により血栓を形成し血管を閉鎖していくことによって末梢循環不全を起こす疾患で長期間にかけて徐々に腎臓の機能が弱くなる病気です。ひどくなると結局その機能が止まって足に流れる動脈にも 血栓が蓄積され、 指や足が腐っていくようになるという病気です。
医師は父の足を一日も早く切断しなければならないと言われました。
切断しても治療が出来る事でもないことでした。切断しても続けて腐ってしまうから最後には内桃まで切断するならいっそう死んだほうはましだと強く手術を拒否しました。ああもこうも出来ないで、父親が病院で横たわっていたある日 教会に通うある女の方が他の人のお見舞いに来たついでに父を見て“どんな病気にかかったので医師の先生も治せないと言っていますか”と聞き“神様を信じて祈ってみてください。神様は治されない病気がないです。と言いました。その時、父は心の中で“神様がどこにいて信じるというのか！この大きい病院の医師も治されない病気を誰が治すのか？”と言いながらその方の話を無視したそうです。
家に帰って来た父は徐々に腐っていく足で寝れなくて苦痛な毎日を送りました。村の小さい教会で朝 4 時になると相変わらず教会で明けの鐘がなりました。ある日はその鐘の音を聞いた父はふっと思ったそうです。
“どうせ死ぬなら神様を一度信じて死ぬ。”と、その日から父は不便な足で松葉杖にたよって毎朝教会に行き神様に祈りました。父をついて私もその時から教会に通い始めました。父は決信した後から全ての礼拝と朝祈り会まで休まなかったです。そのように神様を信じゆだねながら熱心に祈るうちに病気が徐々に治り始め 5 年後には完治されました。そして 36 年間の歳月が流れた今も 80 歳になった父は健康な姿で生活し神様を仕えています。父の病気が治され常に感謝し楽しく生活している変わった姿を見ると私も神様がおられる事と全能なる方であることを堅く信じるようになりました。
軍隊に入隊して服しているあいだ耐えない大変な目に合って何回も死の危機もありましたがその時よって神様が力を与えて助けてくださいました。部隊の中では教会がなくて主日には部隊の外にある教会で礼拝を捧げました。先輩たちから酷く叱られ迫害されましたが神様の恵みを愛する私の心を防げなかったです。
除隊して田舎でしばらく農業する時でした。冬に山へ登って 燃料として使う木を背負子になって 降りて来ながら倒れて転落事故に巻き込まれました。100kg になる思い木材を背負って 75 度くらい険しい道から転落しましたが幸いに無事でした。神様が私を守ってくださいました。
田舎の生活を終えて都市で生活しましたが体があちこち痛かったです。兄の妻が通う教会に通いながらいげんの賜物について初めて知るようになりました。体の健康といげんの賜物を求めながら 100 日あいだ朝祈り会に行きました。切ない心で祈りながら期間をきめった祈りが終わるくらい祈りする時に聖霊の臨在と能力を体験しました。痛い所に傷が出来るような私の体は火のように続けて痛いでした。そしていげんをいただいてまるで体が浮ぶような感じになってすっかりと健康に回復されました。しかし、このような体験は神様の御言葉に真の信仰持ってない状態でいつからは神様の信仰と愛が冷めていきました。私の心が高慢になりました。そして教会へ行く日をとんとん疎かになり後では教会を転々いながら教会から離れてしまいました。.
神様を離れ世の中と友として彷徨し、歳月を無駄使いしながら恵みと真理教会に通う妻に出会い主にたいする初恋を回復されました。
神様の前で過去を悔い改め結婚してからもっと信仰生活に熱心しました。
うちの教会を通いながらなぜ信仰が神様の恵みに根拠をして私達の信仰が恵みと真理で満たされるべきであると悟りました。
神霊な賜物を受けたとしても主の栄光ため使わないとすぐなくなるのも悟りました。切ない心で神様の御言葉を愛し神様の御言葉を聞き従う信仰で変りました。
ある日から主のため私の全てを捧げて献身したい願ができました。心の中にはあっても実践できませんでした。
何年が過ぎてまた急に体が痛い始めました。体重も 5 キログラムも減りました。痛みが酷くて会社も一週間も休んで病院に行き診察しても明確な病名も出ませんでした。 痛くて消化も出来ませんでした。我慢できなくて病院に入院して薬を飲みながら特別な治療も受けましたが効果がなかったです。
そうするうちにある日は夢を見ました。夢で神様の声を聞きました。そしてたくさん祈ったあげく新学校に入学すると原因が分からなかった頭痛と消化不良が治りました。
　私は今教会学校の中等部の教師として学生を仕えています。信仰と愛と熱い熱情を与えて下さり一人の魂を尊く思い心で献身するように導いてくださる神様に栄光を捧げます。
礼拝を捧げるたびに主の喜びと平安を与えて下さり主の御言葉を通して私達がどのように生きべきか教えてくださり、主の御言葉を通して力を得てわしのように信仰で生きるように導いてくださる神様の恵みを賛美します。
信仰と愛と謙遜を与えて下さり忠誠して教会と学生を仕え、日々を主と共に生きながら主の御心の通りに生きる事を願います。
　“良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。御父には、移り変わりも、天体の動きにつれて生ずる陰もありません。（ヤコブの手紙　１：１７）ハレルヤ！

［信仰コラム］　軽い患難と永遠で重みのある光栄

″私たちのちょっとされる患難の軽いのが極めて大きく、永遠の栄光の重いものを我々になすためだから″(コリンドへの後書4:17)

患難を指して'軽い患難'と言ったら、ぎこちなくて適切でないとされます。軽いという言葉と患難という言葉は調和されないことが一般的に考えています。しかし、使徒パウロは'患難の軽いこと'と話しました。これは逆説的にその中で真理があります。″どうして患難が軽いのか?″という質問に対する答えをご覧ください。
まず、″'軽い患難'という人はその意味をよく分らなくてちゃんと経験しなかったためではないか?″という答えです。
'軽い患難'という人はたぶん、患難をあってみたことがない人だろうと推定するほどです。なぜなら、患難は苦痛の原因となる全てのことを含蓄しているためです。しかし、'軽い患難'と言ったパウロはコリンドへの後書 1 枚 8 節と 9 節に、11 枚 23 節で 27 節に自分がどれだけ深刻な苦境を受けたのかを話しています。さらに,彼が受けた苦境は一定期間に限定されたものがありませんでした。福音を伝えるために活動した一生が 患難でした。だから、患難が何なのか経験しなかったためだとか、軽率に言うのではないことが明らかになりました。
次に、″それでもどうしてパウロは患難を軽いものと確信を持ってどしどし出したのでしょうか。″という質問です。
パウロ師道は'私が受け取る患難'と言わず'私たちが受ける患難'だと言いました。ここで'うちの'は僕たちの罪を贖罪しようと十字架に打ち込まれなくて死んでしまったですが 3 日ぶりに復活したナザレ、イエスに向かって″くださったキリスト生きていた神様の息子です。″と告白するすべての人々を指すのです。、イエス・キリストを信じて仕える聖徒たちは患難を指して'軽い患難'と言えます。その理由は次のようです。
第一に、人間が神様に犯した罪の重大さに比べれば、人間が体験する苦境はむしろ軽いことです。もし神様が矜恤と情けをかけることもいやしてくだされば もう人間は絶滅されてしまったのです。第二に、罪人を救援してために主イエスが受けた苦難の重大さに比較したら私たちがされる患難は軽いとすることができます。神の御子で罪を知らなかったイエス様が私たちを救うために、世の中に来て、人の体を着ました。罪な人生から蔑視を受けて、尋問を受けて桂冠をかぶって、鞭に打たれるて裸にして十字架に打ち込まれなくて死んでした。第三に、患難により、私たちの信仰と人格に生まれる進歩と発展の重大さに比較したら私たちがされる患難は軽いとすることができます。患難を受けるので貪欲を放って、プライドを捨てることになり、患難受けた者たちを深く理解して同情し、助けることになります。主イエスキリストの降臨を待ちながら天国を心から思慕するようになります。
第四に、私たちの未来の栄光の重大さに比較したら私たちがされる患難は軽いとすることができます。、イエス・キリストを信じているために、注意の仕事に熱心を果たすことのために、福音を伝えるために、損失、犠牲、逼迫、苦痛は'キリストと共に受ける患難'です。このような苦境は実にすばらしくて、光栄な意味があります。その栄光がどれだけ大きくて栄華を極めたのかはこの世の何物で比較したり、形容することができません。五つ、私たちが未来の栄光は永遠に比べたら私たちがされる患難は軽いとすることができます。この世界の旅ははしばらくの人生だけと、天国の生活は、永遠のものです。
患難は真実の聖徒を挫折と放蕩と絶望の泥沼に押し入れません。深刻な重圧感をあげられなくます.皆さんは、直面する患難について'軽い患難'と言える十分な理由を持ったので願望を持って生きてことを祈ります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

すばらしい聖徒のモデルになりましょう

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

‘すばらしい’と言う言葉は粋な，美しい，品位ある，風情ある，優雅な，きれいな，気高い，淑やかな，ふさわしい状態を表現するのに使われます．ある事物でもその事物になくてはいけない要素があります．これを否定してしまえばその事物の自体を否定してしまうのがなります．これを ‘本質的属性’と言います．‘聖徒らしい’と言う言葉は聖徒としての‘本質的な属性’を持っているし またこれを完全に現わす聖徒を示して言う言葉です．だから聖徒らしく処身する聖徒が ‘すばらしい聖徒’です．聖徒の ‘本質的属性’の中にまず指折り数えられるのが ‘信じる’です．この信仰は聖書に啓示された神様を向けた 信仰です．また聖書に啓示された神様の言葉に対する信仰です．こんな信仰で神様の命令に従順する聖徒が ‘すばらしい聖徒’です．ヘブル人への手紙 11 章には自分が持った信仰を行動で現わした人々を列挙しておきました．アベル とエノク とノアはまことにすばらしい聖徒のモデルです．

今日はすばらしい聖徒の見習うと言える アブラハムとイサクとヤゴブに関する記録をよく見ます．

先に、アブラハムに対して記録された部分をよく見ます．

ヘブル人への手紙，11：8 節に見ると **“信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。”**と記録されています．アブラハムはどこに行くか分からないながらも神様の言葉に黙黙と従順して出発しました．アブラハムは神様の出す手を握って行きました．その秘訣が何ですか? 記録されるのを “アブラハムがヨホバの言葉をついて行った．” と言いました．聖書に記録された神様の言葉が神様の出す手です．**“神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”（ヨハネによる福音書 3:16)，“イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”（ヨハネによる福音書 14:6)**．このような言葉たちが人々を天国で導くために突き出した神様の手です．このような言葉を信じて従順する人は天国で導く神様の手をつかんだ聖徒になります．このように神様の手を握って天国を向かって行く聖徒がすばらしい聖徒です．

“それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。”（ローマ人への手紙 5:3,4)，“なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。”（コリント人への第二の手紙 4:17)，“神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”（ローマ人への手紙 8:28)．このような言葉たちが神様が出した手です．このような言葉を聞き信じて従順する人は患難がしあわせになって，苦難が光栄になって，試練が発展の機会になるように導く神様の手をつかんだ聖徒になります．こんな聖徒がすばらしい聖徒です．

次は、アブラハムといっしょにイサクとヤゴブに対して記録された部分をよく見ます．

ヘブル人への手紙,9 節と 10 節に記録されるのを **“信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。”**と言いました．人にはこの世の中での生が全部ではないということを聖書があきらかに啓示しました．人生は不可欠に近付く死後には他の世の中で住むようになるという事実を知らせてくれます．死の向こう側の世界は一つではなくふたつです．天国と地獄です．聖書には死と死後の世界に関して私たちがこの世の中からどんな身分で暮しているしどうやって暮さなければならないはずなのかを教訓しています．本文には聖徒たちが旅人の人生としての正しい生の態度にアブラハムとイサクとヤゴブを模本で提示しました．彼らの見せてくれた模範はおおよそ四種類で整理することができます．

第一、“この人々はすべて信仰に従って死んだし約束を受けることができないそれらを遠くから見て歓迎した．”と言いました．

彼らは神様の約束が成り立つことを直接見られなかったがその約束の成就をすんごうも疑わなかったです．その約束たちと言うのは救世主が世の中へいらっしゃることと彼を信じて救い受けるようになる幾多の人々に関する．そして彼らと一緒に得る企業と賞に対する．イエスキリストがユダヤ人たちに **“あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようとして楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ」。”（ヨハネによる福音書 8:56)**と言いました．今日の私たちはメシァがいらっしゃってあがないの使役を行った以後に暮しています．約束した聖霊を注いでくださって神霊な恵みをふんだんにくださる時代に暮しています．しかし私たちにもまだ成り立たない約束たちがあります．イエス様の来臨と肉体の復活です．私たちもアブラハムとイサクとヤゴブを模範として旅人に暮らす間約束の成就を信仰で眺めながら歓呼して楽しがって生きて行かなければなりません．

第二、“地では外国人と旅人だと証拠したからこのように言う者等は故郷を捜すことを現わす．”しました．

“証拠したから”という原語は告白して公開して言うことを意味します．自分がこの地では外国人と旅人に思って暮したのみならず公開的に宣言しました．アブラハムとイサクとヤゴブは大きい金持ちだったが高台広室を作って暮さなかったです．むしろ天幕で暮しました．聖書にはその理由をこんなに明らかにしています．**“信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。”（ヘブル人への手紙 11:9,10)**．人々がアブラハムに “あなたは大きい財産家なのにどうして堅固で派手で大きい家を建てないで天幕で暮らしますか?” と問えば “私たちの人生はこの世の中に長居をすることができないです．すぐ去らなければならない外国人で旅人です．” と答えたはずです．

第三、“私どもが出たところの故郷を思いのに帰る機会があったはずだ．”と言いました．

彼らはその気になればいつでも彼らが出た故郷に帰ることができました．彼らの故郷は “ガルデアのウル” でありながら “ハランというところ”です．彼らがこんなに大きい金持ちになったから帰れば錦衣還郷だった．アブラハムが本土の親の父家を離れてガナアンに到着するとすぐ飢饉が迫って来ました．故郷に帰ろうとする誘惑がきました．**しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。（ヘブル人への手紙 10:39)．イエスは言われた、「手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである」。（ルカによる福音書 9:62)**．信仰生活をしながら不信者である時より環境的に困難をもっと経験する事があっても天国を向けて日々に行っているというこの一つだけでも感謝して讃尿しなければなりません．

第四、“彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。”と告げました．

彼らが慕った故郷は 天にあったのです．神様が予備なさった天にいる都がどうかに対してヨハネの黙示録に詳らかに記録されています．**また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。（ヨハネの黙示録 21:2)**と言いました．その所には死亡がなくて哀痛することや大声で泣くのがないです．夜がなくて俗っぽいことやにくむした仕事がないです．うそつく者がいなくて魔鬼がないです．その城郭は色色の宝石になっています．その都は正金なのに清いガラスみたいです．開いた門があるのに門ごとに一つの真珠です都の道は清いガラスみたいな正金です．水晶のように清い生命水の川が道の中で流れます．都の大通りの中央を流れている。川の両側にはいのちの木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのり、その木の葉は諸国民をいやす。．

私たちの主イエスキリストが予備なさった天国に入ることを最終の目標にして生きて行く人は世の中に帰らないです．神様はこのような信仰で暮す者等を非常に喜んで彼らのために一つの都を予備なさいました．その都が私たち主キリストが予備なさった父の家です．まるで花嫁が自分のご主人のために飾りつけたような ‘新しいエルサレム都です．聖徒の皆さんは明日の仕事がすべて分かることができなくても恐ろしがらないでください．神様を向けた従順の手を突き出して神様の約束の言葉を必ずつかまえて人生のみちをいらっしゃってください．こんな聖徒がすばらしい聖徒です．

聖徒皆さんはこの世の中で外国人と旅人に生きているという事実を深く認識していつも天にある故郷を慕いながら生きて行ってください．こんな聖徒がすばらしい聖徒です．皆さんは皆すばらしい聖徒のモデルになるように願いします．